

校内研修計画

八幡小学校

1. 学校課題

八幡小学校は果樹園と緑に囲まれ、豊かな自然環境の中に位置している。昔から本地区に住んでいる家庭が多く、学校教育への地域の理解と関心は高い。また、家庭での児童の生活は比較的安定しており、“家庭が楽しい”と感じている児童が大多数である。家庭生活における特別な課題は見られないが、全学年で就寝時刻が遅い、決まった時刻に自分で起きられないなど生活リズムに課題を持つ児童が2割から3割ほど見られた。

学校生活に関しても、ほとんどの児童が“楽しい”と感じており、明るく素直に活動している様子が見られる。また、ほとんどの児童が、“仲のよい友だちがいる”，と感じている。単学級のため、友だち関係が固定化している面もあるが、そのぶん休み時間など学年を越えた交流が多く見られる。さらに“やさしい心、思いやりの心を持って生活している”と自己評価している児童の割合も高い。ただ、少数ではあるが“そう思わない”という児童がいることは課題であり、思いやりの心・命の大切さを感得させることは、学校教育全体で継続して取り組んでいかなければならない。

学習に関しては、自身の“理解の状況や学習態度”について十分でないと捉えている児童も少数いるが、全体的には、興味・関心をもって進んで取り組もうとする児童が多いといえる。全国学力学習状況調査から、基礎的・基本的な知識・技能の定着と文章を書くことに関する力に課題が見えた。今年度は、①授業改善のさらなる推進②学級づくりのさらなる充実③家庭学習のさらなる促進の3点の取り組みが必要であることが確認されている。特に、今日的教育課題であり、本校児童の課題にも通じる「思考力・判断力・表現力」の育成を中心に、どの子にも「確かな学力」を定着させるべく、「授業づくり」を核とした創意ある教育活動を展開していかなければならない。

〈めざす子ども像〉

- 自他を思いやり、生命を大切にす気持ちをもつとともに、友だちと関わり合いながら、協調して活動することができる子ども（豊かな人間性や社会性）
- 学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども（確かな学力）
- 進んで体力づくりに取り組み、心身ともに健康な子ども（健康・体力）
- がんばっている自分に誇りの持てる子ども（自尊感情）

2 研究主題

「生きる力を支える確かな学力の育成」

—わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりを通して—

3 主題設定の理由

めまぐるしく変化する現代社会に対応する能力の育成として、また、生涯にわたる学習の基盤を培うため、知識・技能の習得とそれらを活用した課題解決のための思考力・判断力・表現力、そして学習意欲・学習習慣という「確かな学力」の定着が、今、子どもたちに求められている。今年度、県では、〈個に応じた指導方法の工夫・改善に努め基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る〉〈体験的な学習・言語活動などを重視し、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育む〉〈児童のよさや可能性を積極的に伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養う〉を指導重点とし、市では、〈知識・技能の活用をはかる学習活動（活用学習）〉〈学級経営の充実（学級力の向上）〉を着目点としている。

本校の校内研究においては、体験や体験的な学習を通して、『生きる力』を徳の側面からとらえた「豊かな心」、知の側面からとらえた「確かな学力」の定着を目指してそれぞれ3年間ずつの継続研究の後、一昨年度より、「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業づくりを展開し学習意欲を高めることが本校児童の課題となる資質や能力の育成のために必要であると考え、『学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども』をめざす子ども像として、新たなテーマのもと研究をスタートさせた。主体的な学びにより、学ぶことの楽しさや成就感を体得させることで、課題であるめざす子ども像『がんばった自分に誇りを持てる子ども』の育成にもつながると考えた。また、「授業づくり」の要素・基盤としての「集団づくり」・「学習習慣づくり」についても、学習規律やQ-

Uテスト、学力向上プロジェクトの活用、家庭学習や生活習慣など家庭との連携など取り組みが定着し機能し始めたところである。これらを継続させながら、「授業づくり」においては、授業改善を図るために有効な具体的視点の共有化など研究と実践を積み上げていかなければならない。

「授業づくり」を中心に据え、「集団づくり」「学習習慣づくり」とも有効に機能させながら「確かな学力」の育成を図ることは、さらに継続が必要であると考え。これは、県や市の「学力向上」の取り組みとも連動するものであり、県や市の先行研究からも学びながら、本校児童に生きてはたらく「確かな学力」の定着と向上を図りたいと考える。

4 研究内容（研究目標）

(1) 授業づくりについて

◎「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業を展開し、学習意欲を高めることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(2) 集団づくりについて

◎互いに認め合い、励まし合い、高め合える人間関係を築く活動に取り組み、学級力の向上を図る。

(3) 学習習慣づくり

◎家庭との連携を図り、発達段階に応じた取り組みを工夫しながら、授業の基盤となる基礎学力の定着や学習習慣の確立を図る。

(4) 具体的内容

- ① 「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業、学級力向上についての理論研究
- ② 「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業の実践（算数ほか）
 - ア 指導計画の作成と指導方法の研究
 - イ 授業実践・授業改善
- ③ Q-U テストや学級力向上プロジェクトの実施と活用→改善に向けた取り組み(授業やそのほかの活動)→学級・児童の変容についての交流
- ⑤ 「やわたタイム」を朝読書やくり返し学習に活用、基礎学力の定着を図る
- ⑥ 「家庭学習の手引き」「家庭学習と生活の記録」カードを活用、生活習慣・学習習慣の定着

年 間 校 内 研 修 計 画

研究主任 矢崎 三枝子

	研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
4月	研究主題・内容・計画		研究主任			
5月	理論研究 (学級力向上プロジェクト・Q-Uテストの活用)		研究主任			
6月						
7月	指導計画・授業計画	算数ほか	研究主任 全 員			
8月	1学期の実践から授業改善を考える					
9月	授業案作成					
10月	指導案検討 授業研究			5年	10月28日	
11月	授業研究まとめ			3年	11月18日	○
12月	部会研究のまとめ					
1月	本年度の成果と課題 来年度の構想 集録の作成					
2月						
3月						